

## 担当者Kといっしょに学ぶ、砂の遺跡のあれ・これ・それ

弁士：久我谷溪太（神奈川県教育委員会）

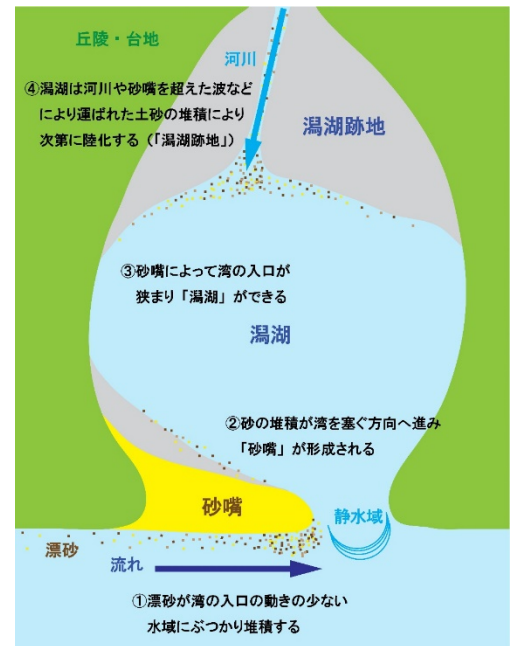
### I. 前口上

- ①担当者 K の正体
- ②かながわの遺跡展・・・？
- ③門前の K 習わぬ経を講ずる

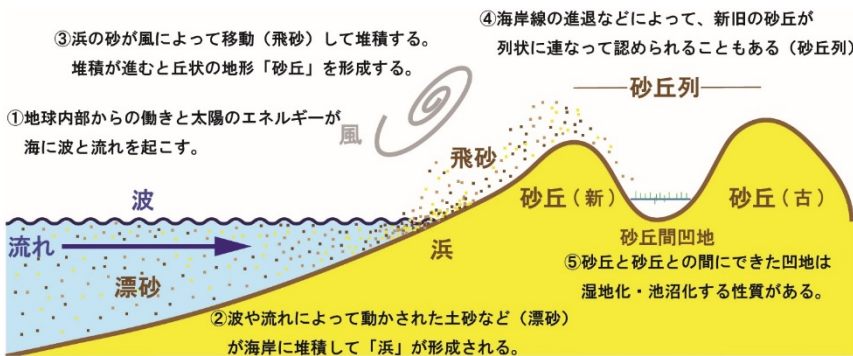
### II. 砂 Q & A

- ①砂丘？（内陸砂丘と海岸砂丘）
  - ・風の力により砂が丘状に堆積した地形

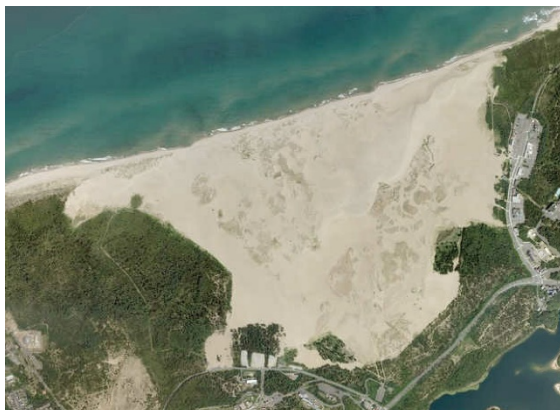
- ②砂嘴？（or 砂州？）
  - ・（湾の入口を塞ぐように）細長く砂が堆積した地形



▲砂嘴・潟湖のつくられ方



▲砂丘のつくられ方



←鳥取砂丘

八郎潟→

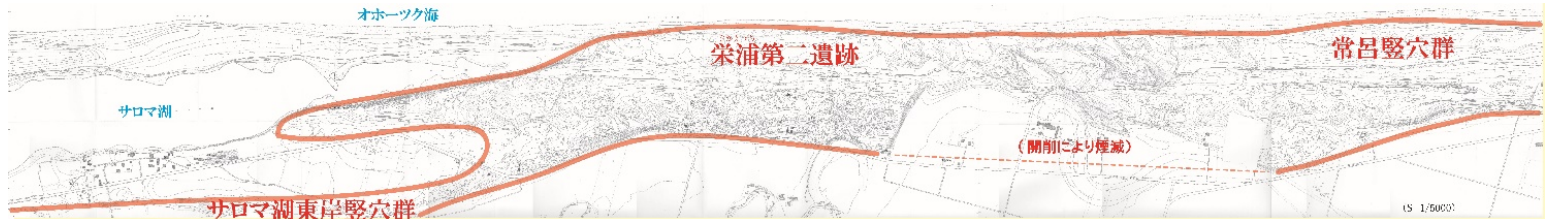
（地理院地図）



### Ⅲ. 砂の遺跡の「あれ」—住・業—

#### ①オホーツク文化と砂丘遺跡

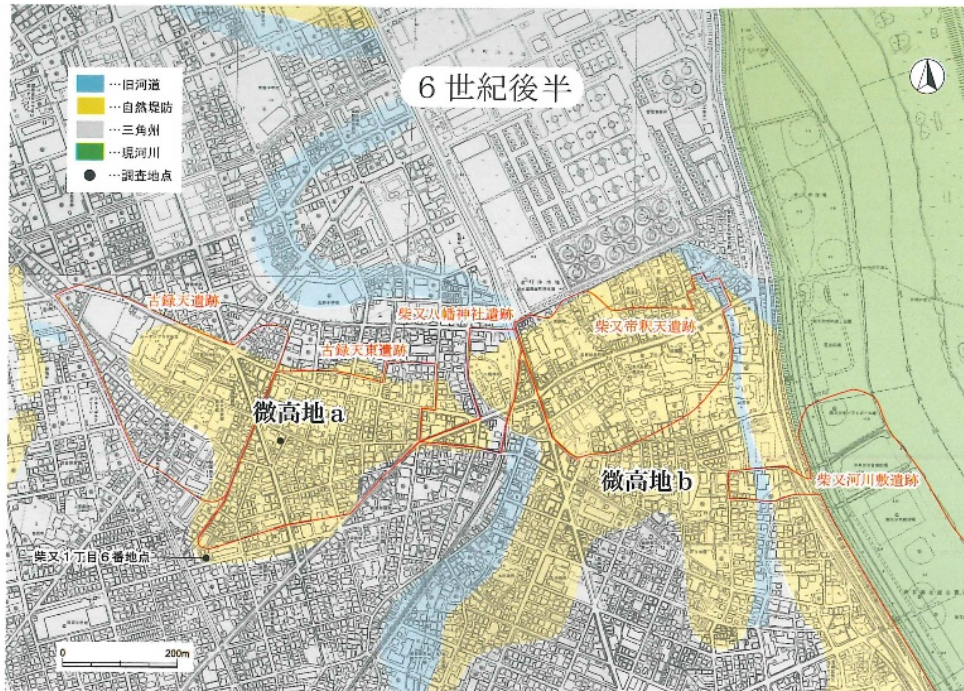
- ・3～13世紀にかけてオホーツク海沿岸を中心に展開した文化
- ・海獣狩猟と漁労を中心とする生業、砂丘上で確認されている集落遺跡も多い



▲砂丘上に形成された常呂遺跡の竪穴群（赤い線が砂丘の範囲）（『常呂』を改変）

#### ②低地に住む—東京低地の微高地と遺跡—

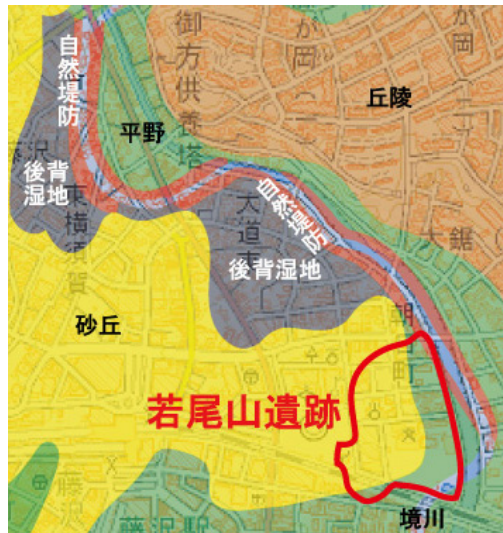
- ・東京低地…海拔0m地帯、大河川の氾濫、入り乱れる河道
- ・周りが低ければなるべく高いところ（より環境のよいところ）に住む



▲柴又地区（東京都葛飾区）の遺跡分布と地形（『発掘された古代の葛飾』）

③湘南砂丘地帯の集落遺跡—若尾山遺跡の場合—

- ・縄文時代前期以来の古い砂丘の頂部に位置している
- ・水田としての利用が想定される後背湿地／石錘の出土



石錘類  
(漁網用の重り)

◀弥生時代中期から古墳時代前期ごろの若尾山遺跡周辺の地形想定復元図 (上本・浅野 1998 をもとに作成)

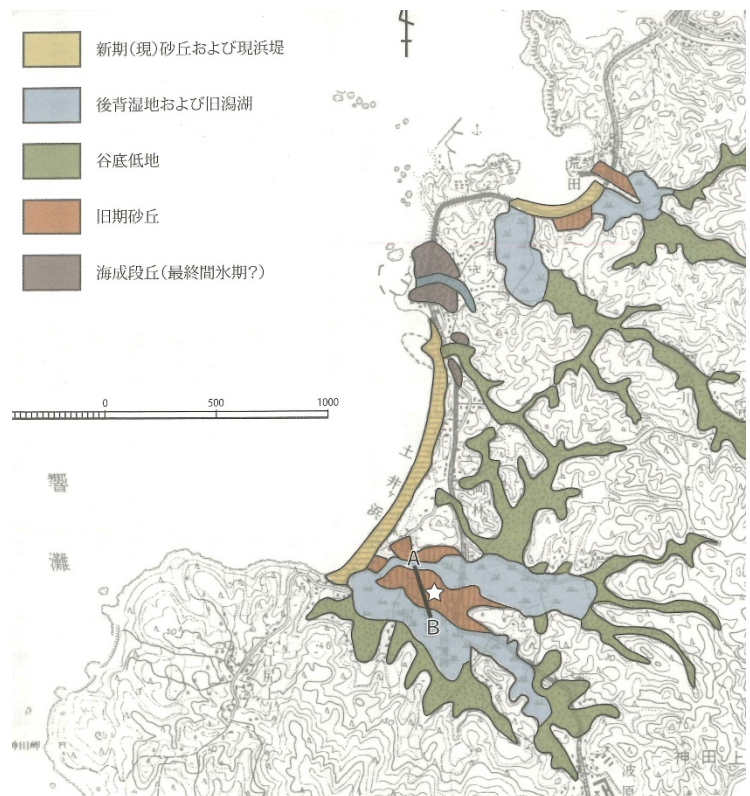
#### IV. 砂の遺跡の「これ」—葬・祭—

①弥生時代の砂丘の墓地—土井ヶ浜遺跡—

- ・宗教観など思想的側面“だけ”で墓の場所が決まるのか
- ・周辺の(古)地形や集落遺跡との関係性は



▲埋葬遺構の分布状況 (『土井ヶ浜遺跡と弥生人』)



▲土井ヶ浜周辺の地形分類 (『土井ヶ浜遺跡』)

## ②中世都市鎌倉の砂丘と墓

- ・狭い土地に造られた中世の大都市、その周縁（境界域）としての海浜部
- ・商工業地帯と墓域の重なり、平野の奥の幕府中枢域のとのすみわけ



▲埋葬遺構（『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡』）

▲墓と他の遺構の分布状況（『鎌倉市報』9）

## ③竹の花遺跡と伊豆の祭祀遺跡

- ・砂嘴で塞がれた湾の旧波打際付近にある祭祀遺跡
- ・伊豆半島や伊豆諸島に点在する祭祀遺跡と関係する？



▲子持勾玉（竹の花遺跡）



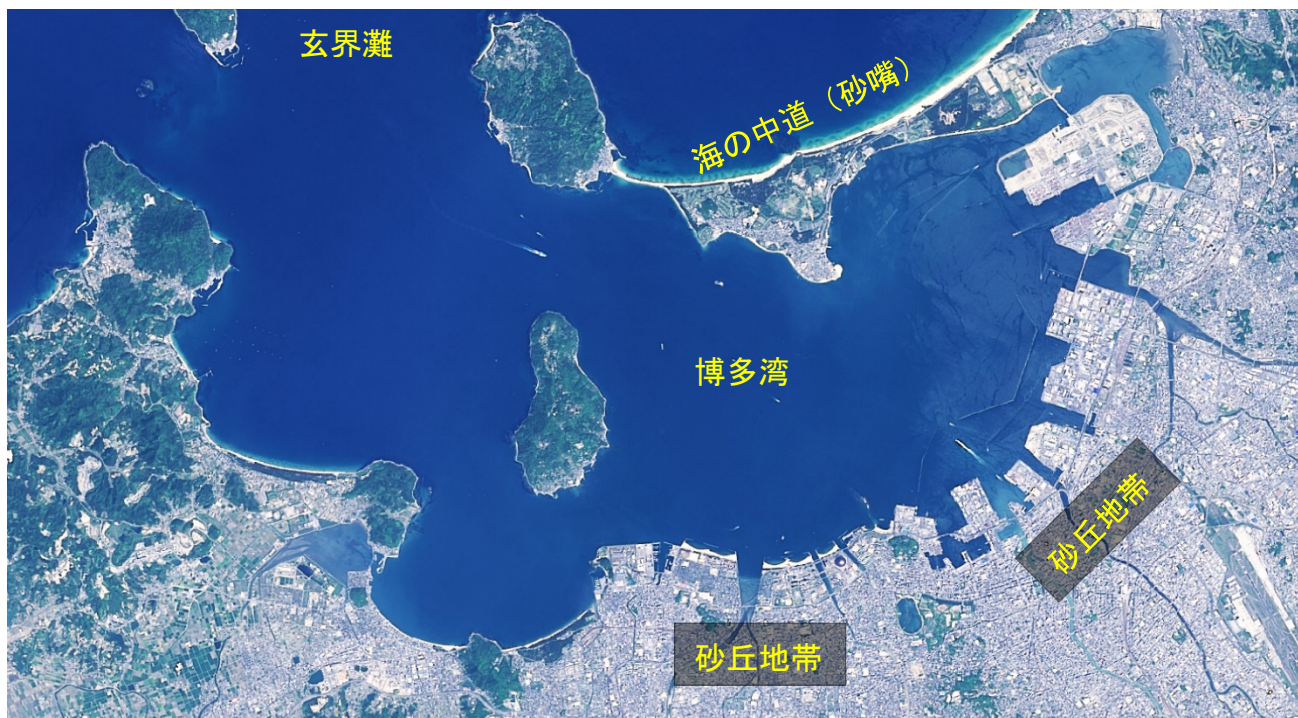
▲伊豆半島・伊豆諸島周辺の祭祀遺跡

(橋口尚武 1991「列島の古代文化と伊豆諸島」『海と列島文化』7)

## V. 砂の遺跡の「それ」—防—

### ①都市・博多の海と港

- ・ 玄界灘—海の中道—博多湾—砂丘地帯
- ・ 弥生時代以来の九州最大の交易拠点地（港）

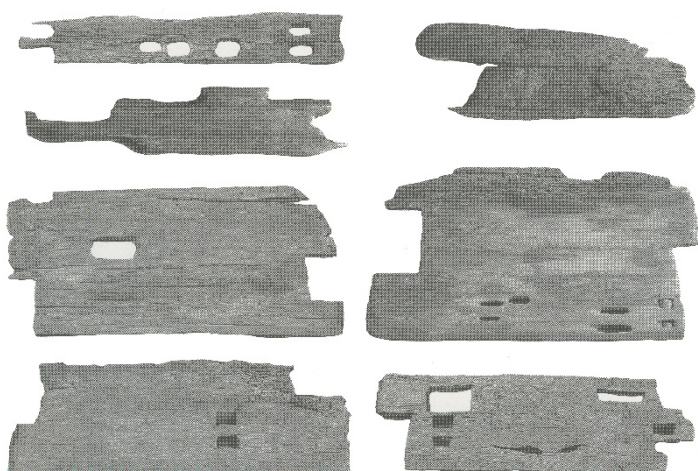


### ②埋もれた潟湖と港

- ・ 潟湖…外海と隔てられた穏やかな水域⇒港としての利用
- ・ 小荷谷遺跡は潟湖の地形環境を利用した公共性の高い古代の港湾施設か



▲小荷谷遺跡周辺の地形分類



▲小荷谷遺跡の井戸杵材 (『小荷谷遺跡』)

## VI. まとめのかわりに

### 主要参考文献

- II-①・② 鈴木隆介 1998 『建設技術者のための地形図読解入門』第2巻低地, 古今書院  
III-① 西秋良宏・宇田川洋編 2002 『北の異界 古代オホーツクと氷民文化』東大総合研究博物館  
III-② 葛飾区郷土と天文の博物館 2015 『発掘された古代の葛飾—柴又地区の集落—』  
III-③ 藤沢市編 2011 『大地に刻まれた藤沢の歴史』III  
IV-① 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 1993 『土井ヶ浜遺跡と弥生人』  
IV-② 五味文彦・齋木秀雄編 2002 『中世都市鎌倉と死の世界』, 高志書院  
IV-③ 小野真一 1982 『祭祀遺跡』考古学ライブラリー10, ニュー・サイエンス社  
V-① 小林 茂ほか編 1998 『福岡平野の古環境と遺跡立地』, 九州大学出版会  
V-② 石村 智 2017 『よみがえる古代の港』歴史文化ライブラリー455, 吉川弘文館

